

奮闘する

ボランティア宿泊拠点

盛岡市かわいキャン

(岩手県宮古市)

金曜日の午後9時55分。

東京都港区にある長距離夜行バスの停留所に一人の若者が駆け込んだ。

荒木淳一さん(29)である。

都内で会社員をしているが、金曜日の夜は自宅に帰らない。会社からそのまま午後10時発の夜行バスに乗って被災地へボランティア

「活動に行くためだ。」「仕事は長引いて、いつもギリなんです」と、バスの中で夕食の弁当を告げ

にある「盛岡市かわいキャン」。盛岡市でバスを乗り継いだ末、午前7時に現地に着く9時間の旅路だ。

「そんな生活で疲れないのか？」と尋ねると、「疲れますけど、今しかできないことだから」と笑顔が返ってきた。荒木さんの活動を始めたのは昨年5月。津波の映像に衝撃を受けて、何かできればとの思いで飛び込んだ。最初は新幹線で通ったが、膨大ながれきを前に長期継続が必要と感じ、1回でも多く通えるようにと、夜行バスを使うなどして費用を節約するようになった。

同キャンを活動拠点にするようになってからは、毎週末に被災地に通う生活を半年以上続けている。ボランティアでの出会いには、日常生活では得られない刺激が多く、それが続けられている理由という。「ボランティアは、僕の心の栄養なんです」

「使い勝手良く長期滞在者も」同キャンは、ボランテ

「今しかできないから」 都会から集う若者たち

都会から集う若者たち

「そんな生活で疲れないのか？」と尋ねると、「疲れますけど、今しかできないことだから」と笑顔が返ってきた。荒木さんの活動を始めたのは昨年5月。津波の映像に衝撃を受けて、何かできればとの思いで飛び込んだ。最初は新幹線で通ったが、膨大ながれきを前に長期継続が必要と感じ、1回でも多く通えるようにと、夜行バスを使うなどして費用を節約するようになった。

同キャンを活動拠点にするようになってからは、毎週末に被災地に通う生活を半年以上続けている。ボランティアでの出会いには、日常生活では得られない刺激が多く、それが続けられている理由という。「ボランティアは、僕の心の栄養なんです」

「使い勝手良く長期滞在者も」同キャンは、ボランテ

「そんな生活で疲れないのか？」と尋ねると、「疲れますけど、今しかできないことだから」と笑顔が返ってきた。荒木さんの活動を始めたのは昨年5月。津波の映像に衝撃を受けて、何かできればとの思いで飛び込んだ。最初は新幹線で通ったが、膨大ながれきを前に長期継続が必要と感じ、1回でも多く通えるようにと、夜行バスを使うなどして費用を節約するようになった。

「使い勝手良く長期滞在者も」同キャンは、ボランテ

「そんな生活で疲れないのか？」と尋ねると、「疲れますけど、今しかできないことだから」と笑顔が返ってきた。荒木さんの活動を始めたのは昨年5月。津波の映像に衝撃を受けて、何かできればとの思いで飛び込んだ。最初は新幹線で通ったが、膨大ながれきを前に長期継続が必要と感じ、1回でも多く通えるようにと、夜行バスを使うなどして費用を節約するようになった。

東日本大震災 「あの日」そして「今」

「そんな生活で疲れないのか？」と尋ねると、「疲れますけど、今しかできないことだから」と笑顔が返ってきた。荒木さんの活動を始めたのは昨年5月。津波の映像に衝撃を受けて、何かできればとの思いで飛び込んだ。最初は新幹線で通ったが、膨大ながれきを前に長期継続が必要と感じ、1回でも多く通えるようにと、夜行バスを使うなどして費用を節約するようになった。

「使い勝手良く長期滞在者も」同キャンは、ボランテ

「そんな生活で疲れないのか？」と尋ねると、「疲れますけど、今しかできないことだから」と笑顔が返ってきた。荒木さんの活動を始めたのは昨年5月。津波の映像に衝撃を受けて、何かできればとの思いで飛び込んだ。最初は新幹線で通ったが、膨大ながれきを前に長期継続が必要と感じ、1回でも多く通えるようにと、夜行バスを使うなどして費用を節約するようになった。

「使い勝手良く長期滞在者も」同キャンは、ボランテ

「そんな生活で疲れないのか？」と尋ねると、「疲れますけど、今しかできないことだから」と笑顔が返ってきた。荒木さんの活動を始めたのは昨年5月。津波の映像に衝撃を受けて、何かできればとの思いで飛び込んだ。最初は新幹線で通ったが、膨大ながれきを前に長期継続が必要と感じ、1回でも多く通えるようにと、夜行バスを使うなどして費用を節約するようになった。



ボランティア活動をするかわいキャンの利用者。写真Aは除草活動(9日)、写真Bは海岸清掃(10月16日)いずれも岩手・大槌町



15~73歳。海外出身も。県外利用者を支える

「使い勝手良く長期滞在者も」同キャンは、ボランテ

「そんな生活で疲れないのか？」と尋ねると、「疲れますけど、今しかできないことだから」と笑顔が返ってきた。荒木さんの活動を始めたのは昨年5月。津波の映像に衝撃を受けて、何かできればとの思いで飛び込んだ。最初は新幹線で通ったが、膨大ながれきを前に長期継続が必要と感じ、1回でも多く通えるようにと、夜行バスを使うなどして費用を節約するようになった。

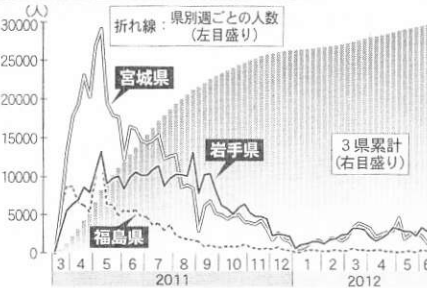
「使い勝手良く長期滞在者も」同キャンは、ボランテ

「そんな生活で疲れないのか？」と尋ねると、「疲れますけど、今しかできないことだから」と笑顔が返ってきた。荒木さんの活動を始めたのは昨年5月。津波の映像に衝撃を受けて、何かできればとの思いで飛び込んだ。最初は新幹線で通ったが、膨大ながれきを前に長期継続が必要と感じ、1回でも多く通えるようにと、夜行バスを使うなどして費用を節約するようになった。

「使い勝手良く長期滞在者も」同キャンは、ボランテ

「そんな生活で疲れないのか？」と尋ねると、「疲れますけど、今しかできないことだから」と笑顔が返ってきた。荒木さんの活動を始めたのは昨年5月。津波の映像に衝撃を受けて、何かできればとの思いで飛び込んだ。最初は新幹線で通ったが、膨大ながれきを前に長期継続が必要と感じ、1回でも多く通えるようにと、夜行バスを使うなどして費用を節約するようになった。

被災地ボランティア参加数の推移



ニーズは無くならない

時期と場所で人員規模、質異なる

大震災から15カ月が過ぎ、ボランティアのニーズも変化してきている。当初は、がれき撤去や被災家屋の清掃などの重労働系の活動が多かったが、今は仮設住宅の集会所でのサロン活動などに重点が移っている。

重労働系の活動では、一度に大量の人員が求められる一方で、サロン活動などは人数よりも継続性が重視されるため、全体的には一度に必要なボランティアは減少している。

「使い勝手良く長期滞在者も」同キャンは、ボランテ

「そんな生活で疲れないのか？」と尋ねると、「疲れますけど、今しかできないことだから」と笑顔が返ってきた。荒木さんの活動を始めたのは昨年5月。津波の映像に衝撃を受けて、何かできればとの思いで飛び込んだ。最初は新幹線で通ったが、膨大ながれきを前に長期継続が必要と感じ、1回でも多く通えるようにと、夜行バスを使うなどして費用を節約するようになった。

「使い勝手良く長期滞在者も」同キャンは、ボランテ

「そんな生活で疲れないのか？」と尋ねると、「疲れますけど、今しかできないことだから」と笑顔が返ってきた。荒木さんの活動を始めたのは昨年5月。津波の映像に衝撃を受けて、何かできればとの思いで飛び込んだ。最初は新幹線で通ったが、膨大ながれきを前に長期継続が必要と感じ、1回でも多く通えるようにと、夜行バスを使うなどして費用を節約するようになった。

「使い勝手良く長期滞在者も」同キャンは、ボランテ

「そんな生活で疲れないのか？」と尋ねると、「疲れますけど、今しかできないことだから」と笑顔が返ってきた。荒木さんの活動を始めたのは昨年5月。津波の映像に衝撃を受けて、何かできればとの思いで飛び込んだ。最初は新幹線で通ったが、膨大ながれきを前に長期継続が必要と感じ、1回でも多く通えるようにと、夜行バスを使うなどして費用を節約するようになった。

「使い勝手良く長期滞在者も」同キャンは、ボランテ

「そんな生活で疲れないのか？」と尋ねると、「疲れますけど、今しかできないことだから」と笑顔が返ってきた。荒木さんの活動を始めたのは昨年5月。津波の映像に衝撃を受けて、何かできればとの思いで飛び込んだ。最初は新幹線で通ったが、膨大ながれきを前に長期継続が必要と感じ、1回でも多く通えるようにと、夜行バスを使うなどして費用を節約するようになった。

「使い勝手良く長期滞在者も」同キャンは、ボランテ

「そんな生活で疲れないのか？」と尋ねると、「疲れますけど、今しかできないことだから」と笑顔が返ってきた。荒木さんの活動を始めたのは昨年5月。津波の映像に衝撃を受けて、何かできればとの思いで飛び込んだ。最初は新幹線で通ったが、膨大ながれきを前に長期継続が必要と感じ、1回でも多く通えるようにと、夜行バスを使うなどして費用を節約するようになった。



夕食では利用者が手作り料理を持ち寄って会話の輪が広がる=9日 岩手・宮古市

お金を稼いで舞い戻って来る」という。各自が活動の帰りにスーパーなどで買った食材を調理して持ち寄り、さまざまな会話に花を咲かせている。利用者でこれまで15歳から73歳までと幅広く、若者男女で囲む夕食である。出身もさまざま日本のみならず海外からの利用者もいる。

被災者と仲間
に育てられ：長期滞在の利用者が口をそろえて強調するのは、使命感とともに楽しいから。

もうすぐ10万人突破

岩手県のボランティア宿泊拠点

岩手県の震災ボランティア宿泊拠点3施設の利用者数が来月にも10万人を突破しそうだ。25日時点でのそれぞれの利用者数は「遠野まごころネット」(遠野市)で6万6263人、「住田町基地」(気仙郡住田町)で1万9624人、「盛岡市かわいキャン」(宮古市)で1万712人。

のみ。各拠点は東北自動車道や東北新幹線が通る内陸部と被災地の沿岸をつなぐ中継基地となっているほか、活動ニーズの調整や被災地への送迎も行う。

岩手県社会福祉協議会は「被災地も少しずつ変わってきている。その姿を見るためにもぜひ来てほしい」